



# 地域子育てネットワークだより

平成30年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2875

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

## 子育て応援ネット全県大会を開催



地域ぐるみで子育て家庭への支援を推進する「子育て応援ネット」の全県大会が2月8日、約400名が参加し、兵庫県公館で開催されました。くすの木保育園の園児による素晴らしい斉唱で開幕し、子育て応援ネット推進母体による活動事例発表と「乳幼児虐待の未然防止には地域子育て家庭応援活動がいかに大切か」をテーマに兵庫県立こども病院名誉院長・中村肇氏による講演が行われました。

子育て応援ネットは、今後も地域住民が子育て家庭をいかに守っていくかを目標に活動していきます。



### 挨拶

兵庫県地域女性団体ネットワーク会議 会長 北野 美智子



平成9年、子どものあまりにも痛ましい事件が兵庫県で起こったことをきっかけに、行政とともに県民それぞれが子育てに邁進してきました。

多くの家庭が、核家族になった今、また、女性の就業率が高くなったことにより、子どもが家庭や地域において独りになることが多い現在、地域の人々が子どもを見守らねばなりません。

やはり、私は、元気な子どもの存在が、この国の将来に希望を抱けるものだと思います。

本日は中村先生のお話をお聞きいただきまして、地域や家庭で子どもの教育、また、子どもを育てることに、さらに一層、取り組んでいただきたいと思います。

### 講演

「乳幼児虐待の未然防止には地域子育て家庭応援活動がいかに大切か」

兵庫県立こども病院 名誉院長 中村 肇

子どもの虐待は、毎日のように報道がされ、本当に深刻な問題になっています。兵庫県こども家庭センターへの昨年度1年間の届出件数は、約4,100件という数に上っています。他の都道府県に比べて、兵庫県の虐待件数は若干少ないですが、年々増加していることには変わりありません。

虐待には、身体的虐待・性的な虐待・ネグレクト（育児放棄）・心理的虐待の4つのタイプがあります。身体的虐待と比べて、性的な虐待・心理的虐待は外から見えにくい面があるため、注意深く観察しなければなりません。特に、心理的虐待を受けた子どもは、心の傷を終生持ち続けることとなります。

年齢が小さい子どもほど虐待による死亡例が多く、日本全体で年間64例の児が亡くなっています。最近の死亡統計を見ると、子どもが感染症で亡くなるケースが減少し、虐待や自殺やいじめで亡くなる数が増えているのが現在の我が国の姿です。

虐待が増加している背景には、母親の育児不安と孤立感があります。核家族化、働く女性の増加等の社会構造の変化、また妊娠出産・子育て期の急激なホルモンの変化等により生じる周産期の母親のメンタルヘルスの変化も原因となります。

母親を悩ませる反抗期は、子どもの脳、なかでも大脳辺縁系の急速な発達が関係しています。子育てにおいては、大脳辺縁系が司っている感性を磨く教育が重要です。その感性豊かな心を育てるためには、目と目を合わす、耳をよく傾ける、うなずく等で子どもを肯定することが大切です。

虐待防止の原点は、「子どもの健全育成」です。

子どもたちが健やかに発育するために、地域の皆さんで支えあうことが基本になると私は思います。

地域応援隊の力なくしては、虐待を減らすことができません。皆さん方の粘り強い活動をお願い申し上げます。



## 子育て応援ネット活動事例発表

### 【伊丹市子育てサークルネットワーク 北山 美喜子・藤本 美和】

#### 「サークルがつなぐ子育ての輪」

少子化や核家族の増加などにより、育児環境が変わっていく中、子育ての悩みを抱えた保護者の不安を解消できるようにと、個々のサークルが集まって交流するところから始まり、平成8年9月に伊丹市子育てサークルネットワークが発足しました。現在の参加サークルは16団体です。サークルマップを作成し、子育て世代が取りやすい場所において、サークルに興味をもってもらう取り組みをしています。毎年ポスターを作成してもらって、支援センターに掲示してサークルの告知をしています。

毎月子育て支援センターで行う交流会では、各サークルの代表が集まってグループトークをしたり、ホールの一室を貸し切ってダイナミックな遊びをするなど、単一サークルではできないようなイベントなども行っています。他には、夏休み中に兄弟も参加できるイベントのカプラや、親子で楽しめる3B体操など、代表だけでなく、サークルの皆で楽しんでもらえる機会を多く作っています。

ただ、今後のサークルネットワークのありかたとして、交流会の進め方やイベントについて大きな課題があるとは考えています。今はSNSで広がれる時代ですけれども、だからこそ、顔を合わせる大切さを、特に育児中の親が強く願っていると日々感じております。

これからも、伊丹市の子育て支援において少しでも力になれるよう、時代に合った活動を続けていきたいと思っています。



### 【姫路市連合婦人会 河南 眞稚子】

#### 「地域で子育て支援活動を実施」

姫路市連合婦人会は平成28年に創立70周年をむかえました。加盟校区数が年々減少していますが、姫路市の女性団体の代表としての活動はもとより、姫路市消費者協会、さらに姫路市赤十字奉仕団員としても従来にも増して、地域に必要とされる組織をめざして、活動しています。各校区婦人会では、すべての地域でそれぞれの校区において子育て支援活動を展開しています。

中寺校区では、溝口駅前デーワンまつりの会場で親子を対象に、バルーンアートの実施や、地域内の保育所やこども園、幼稚園を訪問し、絵本の読み聞かせ等を行ったりしています。

豊富校区では、毎月第4金曜日に豊富公民館で子育て支援をしています。他に、幼稚園・保育所で、絵本の読み聞かせも行っています。

広峰校区では、広峰幼稚園・広峰小学校低学年児童を対象にネイチャーパークを実施したり、広峰幼稚園年長組・広峰小学校6年生を対象にお茶会を実施したりしています。

水上校区では、水上幼稚園を訪問し、年長さんを対象にして、抹茶に親しむ教室を実施したり、折り紙遊びを楽しんだりしています。

姫路市連合婦人会では、他の校区の活動をいろいろ学んで、それを自分たちの地域でも実施しようと取り組むことによって、さらに活動がひろがっています。



### 子どもの「なに」、「なぜ」は創造力のあかし



阪神北広域救急医療財団理事長  
県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載第133回

満3歳を過ぎ、ことばを上手に話せるようになると、矢継ぎ早に「なに」、「なぜ」を繰り返します。

この「なに」、「なぜ」と疑問に思う心こそが、人間のもつ創造力を生み出していくのです。AI化がどんなに進んでも、人間が優位性をもつのは、この創造力です。

子どもが投げかけてきた、「なに」、「なぜ」には、面倒がらずに答えてあげてください。疑問に対して返ってきた答えは、いつまでも脳の奥深くに残ります。もし、答えようもない質問なら、答えられない理由をはっきりと述べることです。これもまた、子どもにとって大きな財産となります。

一番いけないのが、「無視」です。無視が繰り返されると、子どもは知識欲を失い、無気力な大人になっていきます。

AIに負けない創造力のある人間に育てるには、子どもの疑問にしっかりと向き合うことです。